

# ウズベキスタン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ウズベキスタン日本国大使館](#)

- 2024年度日本語教育機関調査結果
- 日本語教育の実施状況
- 教育制度と外国語教育
- 学習環境
- 教師
- 教師会
- 日本語教師派遣情報
- シラバス・ガイドライン
- 評価・試験
- 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	3	5	225	10	98	3,365	6	54	611	19	157	4,201

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

1990年、国立のタシケント大学東洋学部に日本語コースが開設されたのが日本語教育の始まりであり、中央アジアにおける日本語教育のさきがけとなった。1991年、同学部はタシケント国立東洋学大学に改組され、日本語講座において本格的な日本語教育を開始し、以来日本語運用能力に長じた卒業生を多数輩出してきた。

1994年にJFよりNIS諸国派遣日本語教育専門家がタシケント国立東洋学大学に派遣され、カリキュラムの作成と教師指導を行い、全体的な質の向上を図った。その後、同大学の卒業生が輩出された1995年を境にタシケントの他大学や中等教育機関でも日本語教育が開始され（1995年：世界経済外交大学、1996年：世界言語大学）、1998年にはサマルカンド、1999年にはフェルガナでも日本語教育が始まった。常に教師不足に悩まされてきたこれらの大学と中等教育機関も2000年にJICA青年海外協力隊員（JOCV）の活動が始まって以来、着

実に実力を伸ばしてきている。2001年にはウズベキスタン日本センター（UJC）が開設され、一般教育、帰国子女コース、日本語会話コース、日本語能力試験対策など、多様なニーズに対応したコースが運営されるようになった。2008年9月にはサマルカンド国立外国語大学に日本語学科が新たに開設され、2009年2月からはJOCV日本語教師の派遣も始まった。これによりウズベキスタンの日本語教育は、タシケントのみならずサマルカンドでも本格的な規模で実施されるようになった。

このように高等教育における学習熱は高いものの、日本語教育の置かれている環境は必ずしも良好とは言えない。もともと教師の給与水準は低く、教師は複数機関を兼任したり通訳やガイドなどの副職をしたりしており、離職・転職が多く、研究まで行える環境が整っているとは言い難い。そのために日本語研究に本腰を入れて取り組める研究者はなかなか育ってこないのが現状である。今後の課題として、教師のモチベーションの維持、教師の質のさらなる向上、日本語教育分野における専門家の育成などが挙げられる。

日本語学習熱は概ね高く、高等教育機関では文科省国費留学プログラム以外にも、日本国内の大学と積極的に提携し、オンラインで授業や交流を行ったり、学生が日本へ留学したりするケースも増加している。2020年にタシケントに設立されたJAPAN DIGITAL UNIVERSITYや、2022年に日本語教育が開始された、サマルカンドにあるシルクロード観光大学も、それぞれ日本の大学と提携するなど、今後もウズベキスタンの高等教育機関と日本の大学との提携は強化されていくと予想できる。2024年頃からは、新設の私立大学においても、日本の高等教育機関との連携や日本語人材の育成に向けた日本語教育の導入が進んでいるが、カリキュラムや教材の整備が課題である。以下はウズベキスタン国内高等教育機関と日本の提携教育機関の一覧である。

教育機関名	提携教育機関と開始年
タシケント国立東洋学大学	法政大学（1996）東京外国語大学（1997） 筑波大学（2005）東洋大学（2010）上智大学（2016） 早稲田大学（学部間協定のみ 2016） 京都外国語大学（2017）関西大学（2019） 金沢大学（2021）和歌山大学（2022） 広島大学（2025）山形大学（2025）
ウズベキスタン 国立世界言語大学	筑波大学（2015）文京学院大学（2017） 東洋大学（2018）和歌山大学（2021） 神戸市外国語大学（2022）獨協大学（2024） 東京外国語専門学校（2025） 事業創造大学院大学（2025）
タシケント国立法科大学	名古屋大学（2013）大阪大学（2014） 名古屋経済大学（2021）三重大学（2021） 同志社大学（2025）
世界経済外交大学	早稲田大学（1999）筑波大学（2006） 名古屋大学（2010）北海道大学（2015） 和歌山大学（2021）埼玉大学（2021） 事業創造大学院大学（2021）一橋大学（2022）
サマルカンド国立外国語大学	筑波大学（2006）信州大学（2016） 事業創造大学院大学（2021）愛知県立大学（2022）
サマルカンド国立大学	名古屋大学（2016）大阪大学（2018）

	愛知大学（2018）創価大学（2019） 工学院大学（2019）
JAPAN DIGITAL UNIVERSITY	東京通信大学（2020）大手前大学（2020） 産能能率大学（2021）新潟産業大学(2022) 京都橘大学(2022) 岡山理科大学(2024)
シルクロード観光大学	和歌山大学（2019）東洋大学（2022）
カラカルパク国立大学	和歌山大学（2022）
マームン大学	金城学院大学（2024）名古屋市立大学（2024） 京都情報大学院大学（2025）

なお、北海道東川町による「東川ウズベキスタン学術学際プログラム（HU-MAP）連携事業」により、東川町立東川日本語学校にも複数の大学から毎年学生が留学している。

タシケント国立法科大学では、名古屋大学との交流協定により、「日本語による日本法教育事業」を実施するため、日本法と日本語の教育を行う「名古屋大学日本法教育研究センター」を2005年9月に開設した。開設当時、日本語は課外授業に位置づけられていたが、2022年現在では大学の正規教育課程の第二外国語として認められるようになり、センターで学ぶ学生の一部は日本語の授業で単位が取得できるようになった。2025年に開設20周年を迎えた同センターは、日本・ウズベキスタン両国の法曹界で活躍する優秀な人材を多数輩出している。中等教育機関では日本語を教える機関の数は少ないものの、タシケント国立東洋学大学附属アカデミックリツェーでは日本語能力試験に合格したり、国内日本語弁論大会で上位入賞したりする学習者もあり、日本語運用レベルの底上げに大きく貢献している。

学校教育以外の日本語教育機関は、ウズベキスタン日本センター（UJC）、JLPT Master（タシケント）などがあり、地方にはウズベキスタン日本センター（UJC）ブハラ分室（ブハラ）のほかに、日本アカデミー、日本語教室「のりこ学級」（フェルガナ州リシタン）、MIRAI Education Center（フェルガナ）、SAKURA JAPANESE Education Center（アンディジャン）、ユメスクール（ナマンガン）などがある。上記の教育機関の多くは日本への渡航・就労を目的とした人材育成を行っており、小規模の私設日本語教育機関も増加している。

## 背景

日本はウズベキスタンへの主要な援助国の1つであり、独立以降の両国の政治・経済的関係の緊密化を受け、対日関心も高い水準で維持されてきている。戦後の経済発展を成し遂げたアジアの経済大国としての日本への憧れや先進科学技術への関心から、日本語学習に関心を持つ例が多い。

## 特徴

小学生から大学生まで幅広い学習者層を持つのがウズベキスタンの特徴である。それぞれのレベルで特に口頭表現能力が高い学習者が顕著で、ウズベキスタン日本語弁論大会や中央アジア日本語弁論大会では多くの日本人聴衆を驚かせている。

学習者の多くが通訳や翻訳、日本企業や政府系団体などへの就職を希望し、熱心に学習しているが、日本語を活かした就職口は容易に見つからないというのが実情である。また、日本留学を希望する学習者も年々増えているが、文科省による国費留学制度や大学間の協定を利用して留学するケースを除いて実際に留学できるのは一部の経済的に余裕のある者に限られている。2020年頃からは、日本へ渡航し就労することを目的として日本語学

習に取り組む人々が増加している。コロナ禍ではほとんど渡航できる可能性が無かったため、韓国やトルコへ渡航を切り替える人が多かった。2026年1月現在では、技能実習や特定技能制度を利用して日本へ渡航し就職する人が増えつつある。

## 最新動向

2020年、タシケントに創設された JAPAN DIGITAL UNIVERSITY (JDU) は IT を主専攻、日本語を副専攻として学ぶことで、JDU に加え日本の提携大学の学位を取得できる制度をとっており、学習者を集めている。日本企業への就職または N2 の取得が卒業要件となっており、2026年1月現在、15名の学生が日本企業に就職または内定という実績を出している。

また、高度人材育成を目的として、日本の人材紹介会社や日本側の受け入れ企業が現地の高等教育機関と連携して日本語教育を実施する動きが加速している。2024年4月には、タシケント国立工科大学内に株式会社高度外国人材支援機構が Japan Career & Educational Center を開設し、同大学の卒業生を対象に日本語教育を開始した(2026年1月現在では大学の正規の学生も履修可能)。N2 レベルまでの教育を行い、受け入れ企業への就職までをサポートしている。2026年1月までに15名が正社員として日本企業への就職を果たしている。2025年9月より、タシケント国立建設・建設大学においても、同様に日本の人材紹介会社が介入する形で希望者に対する日本語教育が開始された。今後、このようにウズベキスタンから高度職業人材を求める企業と高等教育機関の連携は更に進むと考えられる。

一方、政府による特定技能人材の育成・送り出しの動きも活発になっている。2025年11月には、タシケントの移民庁内の施設において、移民庁の管轄のもと、日本企業が立ち上げた現地法人による大規模な日本語教育が開始された。地方においても移民庁の経済的支援による小規模な日本語教育が実施されているほか、送り出し機関が独自に日本語教育を展開している。2025年10月現在、稼働している送り出し機関は REIWA、Common sense (アンディジャン)、MIGO、OUKAWAY (ナマンガン)、Fairness (タシケント) などがある。

さらに、特定技能ビザによる就労を促進するため、農業省による、農業系の大学における日本語教育の導入の動きも進んでいる。2026年1月現在では、全国の10の農業大学のうち4大学で日本語教育が開始されている。

タシケントにおいてウズベキスタン日本センター (UJC)、名古屋大学、筑波大学の共催で実施している留学フェアは、2024年にはタシケントとブハラ の 2 都市で、2025年にはサマルカンドを加えた 3 都市で開催された。2024年には約 1200 名、2025年には約 1800 名の日本語学習者や留学希望者が来場し、日本留学への高い関心をうかがわせる結果となった。

全体として、国立大学を中心とした長い歴史を持つ高等教育機関におけるアカデミックな日本語教育から、留学や就労に目的を絞った日本語教育へと主な学習者層がシフトしつつあり、それに伴いさまざまな教育段階において日本語教育を提供する機関が増加している。また、日本企業の介入・支援も 2023 年頃以降の特徴である。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

国内のマクタブ(初等・中等教育一貫校)で日本語教育が行われている。2026年1月現在、タシケント市内では少なくとも2つのマクタブ(81番、133番学校)で、1週間に2回程度、日本語・日本文化の授業が行われている。2025年9月からはカラカルパクスタン地方郊外のマクタブにも JOCV 隊員が派遣され、日本語の授業が開始された。その他の地方都市でも教育省からの指示によって日本語教育が行われることがあるが、教科書・教

師不足が顕著であり、体系的な教育は実施されていない。マクタブでは大学の日本語専攻を卒業した者がそのまま教壇に立つケースが多く、日本語レベル・教授経験ともに未熟な場合が多い。「クラブ」と呼ばれる課外活動として日本語を教えているところも存在する。

私立の学校でも日本語教育を実施しているところがある。2024年9月にはタシケント市内に Tashkent Japan International School が開校した。日本語・日本文化・日本の習慣等の教育を取り入れた学校で、将来的に日本留学や日本での就労ができる人材の育成を目指している。同様の学校はサマルカンドでも開校した。このように日本語教育・日本式教育の構想を取り入れた学校教育を展開しようとする動きは個別に複数見られるが、体系的なカリキュラムは存在していない。

## 中等教育

中等教育機関で日本語を教えているところはタシケント市内に1機関（タシケント国立東洋学大学の附属リツェー）存在する。また、サマルカンド外国語大学附属リツェーでも日本語教育が行われている。

## 高等教育

ウズベキスタン国内には日本語専攻を持つ高等教育機関が3機関（タシケント国立東洋学大学、ウズベキスタン国立世界言語大学、サマルカンド国立外国語大学）ある。副専攻または第二外国語として日本語教育が実施されている代表的な機関としては世界経済外交大学、タシケント国立法科大学、JAPAN DIGITAL UNIVERSITY などがあり、その他、シルクロード観光大学、サマルカンド国立大学、カラカルパク国立大学、フェルガナ州立大学、フェルガナ工科大学、ナマンガン国立外国語大学、マームン大学（ホラズム地方）などでも日本語教育が行われている。農業系の大学でも日本語教育の導入が進んでいるが、多くは小規模で課外活動のような形である（2026年1月時点で日本語教育が実施されているのは、タシケント、サマルカンド、フェルガナ、ヌクスにある4大学である）。教材の整備や教師の確保が急務である。

## その他教育機関

1999年にフェルガナ州リシタン市に開設された「のりこ学級」は、初等・中等教育段階の生徒を中心とした一般向け日本語教育機関である。日本人ボランティアの協力により無償で日本語教育を提供しており、ここで日本語の基礎を学んだ学生がタシケント国立東洋学大学などに入学するケースも多い。2001年にはタシケントにウズベキスタン日本センター（UJC）が開設された。同センターでは10歳から成人まで幅広い年齢層の学習者を受け入れており、日本語教育の土壌作りに大きな役割を果たしている。また、UJCでは2013年からJF日本語教育スタンダード準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（三修社）を使用したコースが新設され、新たな学習者層の発掘に貢献している。2024年からは『いろどり 生活の日本語』を使用したコースも開講している。その他、民間の言語センターは数多く存在しており、対面授業に加えてオンライン授業も提供しているところが多い。2025年には初めて、言語センターからの国内弁論大会への参加があった。

失業者・求職者を対象とした職業訓練校であるモノセンター内においても日本語教育が実施されており、2025年4月現在、実施されている地域はヌクス、ナヴォイ、アンゴール、フェルガナ、ナマンガンである。都市部では受講希望者が少なく、タシケントとサマルカンドでは閉講している。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

## 教育制度

4-5-3 制。

初等教育が 4 年間（7～10 歳）、前期中等教育が 5 年間（11～15 歳）、後期中等教育が 2 年間（16～17 歳）。義務教育は 11 年間。後期中等教育には、通常の学校のほか、大学を目指す学力の高い学生が進学するリツェー、専門教育を施すカレッジ（専門学校）がある。

高等教育は大学（4 年間もしくは 5 年間）及び大学院。

## 教育行政

公教育全般については、就学前学校教育省及び高等教育・科学・イノベーション省が管轄している。

現在、高等教育機関 187 機関のうち、61 機関は、高等・中等専門教育省が管轄し、それ以外は、それぞれの専門分野を担当する省（法曹養成系：法務省、医科系：保健省、農業系：農業・水資源省など）が管轄している。また、民間大学が 43 校あり、そのほか、韓国のインハ大学タシケント校、イギリスのウエストミンスター大学タシケント校など、海外大学のタシケント分校が 2018・2019 年頃から増加している。

低い給与水準が原因となり、慢性的な教師不足の状態であるため、優秀な教員の安定的な確保が課題となっている。

## 言語事情

公用語はウズベク語。

民族間共通語として、ロシア語が使用されている。地方によってはタジク語やカラカルパク語などが優勢な地域もある。公的機関から発行される書類で使用される言語がロシア語からウズベク語に切り替えられるなど、ウズベク語を共通語にしようとする動きがある。

## 外国語教育

一般的に初等教育 1 年次から後期中等教育修了まで、主に英語を第一外国語（必修）として履修する。ウズベク語で教育を行う学校においては、ロシア語を第二外国語として学ぶ場合が多い。初等教育 1 年次生～4 年次生までは週 2 時間、5 年次以降は週 3 時間から 4 時間、外国語を学ぶ時間がある。かつてはロシア語が外国語教育の中で圧倒的な地位を保っていたが、現在は必修からも外れ、教育上の地位は低下している。英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語など）を第二外国語として履修できる体制を持つ学校も存在する。

## 外国語の中での日本語の人気

国民の共通語としてのロシア語を除くと英語が最も重要視されている言語である。タシケント市内だけではなく地方都市でも、英語スクールが次々と設立されている。そのほかの外国語として一般社会人が学習できる外国語はアラビア語、ドイツ語、中国語、韓国語などがある。これらの言語は大学のほか、外国の非営利団体や民間の語学学校でも教えているところがある。タシケント市内には韓国語を学ぶことができる機関も多く、日本語と並行して韓国語を学ぶ日本語学習者も多くなっている。日本語は、一定の認知度はあるものの、他言語と比較して人気がある言語というわけではない。

## 大学入試での日本語の扱い

タシケント国立東洋学大学では、付属リツェーで日本語を正規に履修した者については、入学試験科目で日本語を選択できるようにしている。

## 4.学習環境

### 教材

ウズベキスタンでは「ウズベク語化」政策が進んでいることもあり、ウズベク語を使用した日本語の教材が求められている。

『みんなの日本語Ⅰ 文法解説 ウズベク語版』及び『みんなの日本語Ⅱ 文法解説 ウズベク語版』も UJC から出版され、2014年3月にウズベク語教材『ひらがな帳』が、2015年には『カタカナ帳』が制作された。また、『まるごと』文法解説書のウズベク語化も進められており、「入門・A1」と「初級1・A2」の制作が完了している。また、『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 文法解説書』のウズベク語再翻訳版も発行されている。

2024年2月現在、『いろどり 生活の日本語』の入門・初級1・初級2のウズベク語翻訳版が完成し、UJCのホームページよりダウンロードできるようになっている。

### 初等教育

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』（スリーエーネットワーク）を使用している。JOCV 隊員が配属されている学校では、教師の自作教材や『いろどり 生活の日本語』を用いることもある。

### 中等教育

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』（前出）を使用する機関が多い。

### 高等教育

初級段階でも『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』（前出）、『BASIC KANJI BOOK』（凡人社）が、中級段階では『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）『上級へのとびら』（くろしお出版）などが使用されている。タシケント国立東洋学大学や JAPAN DIGITAL UNIVERSITY では自主作成教材が用いられている。そのほか、『新完全マスター』シリーズ（スリーエーネットワーク）『日本語総まとめ』シリーズ（アスク出版）などの日本語能力試験対策教材も多く使用されている。

### その他教育機関

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』（前出）を使用する機関が多い。ウズベキスタン日本センター（UJC）では『みんなの日本語』を使用したコースと『まるごと』や『いろどり』を使用したコースが開講されている。

### IT・視聴覚機材

高等教育機関では、日本語講座室用のコンピューターやAV機材を持つところも多く、タシケント国立東洋学大学、世界経済外交大学、サマルカンド国立外国語大学では日本政府の援助によりLL教室も設置されている。しかし、教師数、学生数に見合う台数はなく、個人所有のコンピューターやインターネットカフェなどを利用している者も多い。初等・中等教育機関では、都市部においては各教室への電子黒板の配備が進んでいる。一般向

けの教育機関ではさまざまな AV 機材をはじめ、常時接続インターネットなどを設置し、一般利用者（会員）に提供している場合がある。

## 5. 教師

### 資格要件

#### 初等教育

学士号に加え、CEFR C1 レベルを取得していることが最低要件となっている。

#### 中等教育

初等教育と同様、学士号に加え、CEFR C1 レベルを取得していることが最低要件となっている。タシケント国立東洋学大学、ウズベキスタン国立世界言語大学、サマルカンド国立外国語大学で日本語を専攻した者が教職についているケースが多い。

#### 高等教育

ウズベキスタンの高等教育機関で正規の教員として日本語を教えるウズベキスタン人教師は、修士号の取得が必須である（非常勤教員の場合は、修士課程在籍中でも可）。それに加えて、国が実施する CEFR テストにおいて C1 レベルに合格する必要がある（修士課程入学のためにも C1 の取得が必要である）。これは日本語だけではなく、すべての外国語教師に課せられるもので、一度取得しても、定期的に受験し取得し直す必要がある。なお現在、学科長以上の役職を持つ教員については、政府より博士号を取得すべきことが奨励されている。

日本人教師についても修士号取得を基本としているが、大学側が個別に判断し、採用しているケースが多い。大学の直接雇いで日本語教育に携わる日本人教師は、2025 月現在、全国で 15 名程度である。それらの教師は日本語教師養成講座修了などの経験を有していることが一般的である。

### その他教育機関

ウズベキスタン日本センター（UJC）では、大学 4 年生以上、日本語能力試験 N3 以上を条件とし、職務経歴がない教師であっても、若手教師育成の観点から積極的に採用し、新任教師研修に力を入れている。

民間の教育機関では、日本語専攻卒業者や留学経験者をはじめ、N2～N3 程度のレベルの教師が教えていることが多い。地方など、教師不足が著しいところではさらに日本語力が低い場合もあり、教師のレベルや質はさまざまである。

### 日本語教師養成機関（プログラム）

タシケント国立東洋学大学、ウズベキスタン国立世界言語大学では日本語教授法などの授業が行われているが、体系的な教師養成を行っているところはない。

### 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状態とその役割

2001 年を境に日本人教師の割合が 50% を割り、2025 年時点では、大学などによる直接雇用の日本人教師は全

国で 15 名程度である。そのほかに、大学やマクタブ（初等・中等教育一貫校）などに配属されている JOCV 隊員や、日本企業が介入している機関で教えている日本側で採用された日本人教師が存在する。日本語教育の規模の拡大に伴い教師不足が深刻になっており、大学で教えている現地採用の日本人教師が複数の機関を掛け持ちで教えたり、JOCV 隊員がボランティアで大学の授業を担当したりすることもある。日本人教師は、高等教育機関などで、日本語会話や日本文化・文学などの授業を担当することが多く、また、日本語弁論大会の指導など、特別活動のための日本語指導を求められることもある。

## 教師研修

ウズベキスタン日本語教師会では不定期で有志による勉強会を行っている。また、JF 日本語専門家が、フェルガナ、サマルカンド、ブハラの日本語教育機関で授業見学や巡回指導を行ったり、教師研修を対面・オンラインで行ったりしている。

### 現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

## 6. 教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

ウズベキスタンのウズベキスタン人教師と日本人教師を会員とする日本語教師会が 1999 年に発足し、活動を続けている。ウズベキスタンでは唯一の日本語教育関係のネットワークである。会員数は 2025 年 12 月時点で 50 名（うち 11 名は日本人教師）。年次総会の場合でのウズベキスタンにおける各日本語教育機関の現状・問題点などについての意見交換、ウズベキスタン人教師及び教授経験の少ない日本人教師への日本語教授法セミナーの実施、その他、日本語弁論大会など、日本語教育に関する各種事業の企画・実施などを行っている。

### 最新動向

ウズベキスタン日本語教師会は 2015 年に JF にほんごネットワーク（さくらネットワーク）のメンバーとなった。

[教師会・学会一覧へ](#)

## 7. 日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

#### 日本語専門家

ウズベキスタン日本センター 1 名

### 国際協力機構（JICA）からの派遣（2025 年 10 月現在）

## 青年海外協力隊・海外協力隊

- 国立世界言語大学 1名
- 国立タシケント農業大学 1名
- 国立東洋学大学附属ユヌサバード校 1名

## その他からの派遣

JICA 以外の機関からのボランティア派遣は現在なし。個人でボランティアとして日本語教育に従事している例もあるが、外国人管理の強化とともに姿を消しつつある。日本企業が介入している高等教育機関では、日本側から派遣されている教師が各機関に2~5名程度存在する。

## 8. シラバス・ガイドライン

持続的な外国語教育の実現を目的とした国家教育スタンダードが2013年に内閣令として発令された。国内の外国語教育に関する汎言語的な基準で、これに基づいてそれぞれの学校や大学のカリキュラムが作成される。

## 9. 評価・試験

2002年よりウズベキスタン日本センター（UJC）主催の「日本語能力認定試験（通称：センター試験）」が「日本語能力試験」と同一形式、同一シラバスで行われていた。2005年からはタシケントで「日本語能力試験（JLPT）」が年2回実施されている。2025年は第1回、第2回試験ともに申込者数が900名を超え、受験規模が年々拡大している。

また、「国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）」がタシケントで、「日本語 NAT-TEST」がタシケント、アンディジャン、サマルカンドの3都市で実施されている。

政府が実施する統一的な外国語の試験としては、CEFRテストがある。政府機関（知識および技能評価庁）が実施するもので、通常、年に2回、タシケントで実施される。試験内容は言語知識（語彙・文法）、読解、作文、聴解、会話である。日本語専攻の大学生はこの試験においてC1を取得することが卒業要件になっており、日本語を大学で教える教員も2年ごとにC1の再取得が義務づけられている。専攻によって異なるが、大学入学の際にも何らかの言語のB2レベルの取得の証明が求められるなど、国内で最も権威のある外国語試験である。

## 10. 日本語教育略史

- |              |  |
|--------------|--|
| <b>1990年</b> | タシケント国立大学東洋学部（現在のタシケント国立東洋学大学）にて日本語教育が始まる。 |
| <b>1992年</b> | 第一回ウズベキスタン日本語弁論大会の開催                       |
| <b>1994年</b> | JF／日本外交協会より日本語教育専門家が派遣される（タシケント国立東洋学大学）    |

<b>1995 年</b>	世界経済外交大学で必修科目の第二外国語として日本語教育開始 中等教育機関で日本語教育開始 (International House Tashkent)
<b>1996 年</b>	中央アジア日本語弁論大会開始 (タシケント) ウズベキスタン国立世界言語大学で日本語教育開始 タシケント国立東洋学大学が法政大学と協定締結
<b>1998 年</b>	サマルカンド国立外国語大学で日本語教育開始 タシケント国立東洋学大学が東京外国語大学と協定締結
<b>1999 年</b>	フェルガナ州リシタン市「のりこ学級」開設 (日本語教育は 1998 年より開始) ウズベキスタン日本語教師会発足 世界経済外交大学が早稲田大学と協定締結
<b>2000 年</b>	JICA 青年海外協力隊活動開始 (世界言語大学、タシケント国立経済大学) タシケント国立法科大学が名古屋大学と協定締結 サマルカンド国立外国語大学附属地域語学センター開設
<b>2001 年</b>	ウズベキスタン日本センター (UJC) が開設され、一般向け日本語コース開講
<b>2002 年</b>	JICA シニアボランティア活動開始 (タシケント国立東洋学大学附属アカデミックリツェー) 日本語能力認定試験 (センター試験) を開始 (2004 年をもって終了) サマルカンド・サテポ観光カレッジで日本語教育開始
<b>2005 年</b>	日本語能力試験の実施が始まる タシケント国立東洋学大学が筑波大学と協定締結 タシケント国立法科大学に「名古屋大学日本法教育研究センター」開設 フェルガナ大学での日本語教育終了
<b>2006 年</b>	世界経済外交大学が筑波大学と協定締結 タシケント国立東洋学大学と筑波大学が共同で「中央アジア国際連携センター」開設
<b>2008 年</b>	サマルカンドにてウズベキスタン日本語弁論大会を実施 (タシケント以外での初の実施) サマルカンド国立外国語大学で日本語学科開設

<b>2009年</b>	サマルカンド国立外国語大学での日本語教育が第二外国語から第一外国語学科に改講 タシケントで中央アジア日本語弁論大会を実施
<b>2010年</b>	タシケント国立東洋学大学菅野怜子准教授が新たな中級日本語教科書（日本語・ウズベク語による語彙・文法の解説書）を作成出版 タシケント国立法科大学が三重大学と、世界経済外交大学が名古屋大学と協定締結
<b>2011年</b>	1991年9月よりウズベキスタンで日本語教育に携わってきたタシケント国立東洋学大学菅野怜子准教授が外務大臣表彰を受賞
<b>2012年</b>	中央アジア日本語弁論大会がタシケントで開催
<b>2013年</b>	日本語能力試験が年2回実施となる（2013年、2014年）
<b>2014年</b>	ウズベキスタン国立世界言語大学において、日本語が第一外国語になる タシケント国立法科大学が大阪大学と協定締結
<b>2015年</b>	安倍総理大臣がウズベキスタンを訪問 ウズベキスタン日本語教師会がJF さくらネットワークのメンバーとなる ウズベキスタン国立世界言語大学が筑波大学、創価大学と協定締結。また世界経済外交大学が北海道大学と、タシケント国立経済大学が高崎経済大学と協定締結
<b>2016年</b>	文化交流使節団「中央アジア文化交流ミッション」がウズベキスタンを訪問 タシケント国立東洋学大学が上智大学、早稲田大学（学部間）と協定締結 サマルカンド国立外国語大学が信州大学と協定締結
<b>2017年</b>	ウズベキスタン日本センター（UJC）ブハラ分室開設10周年
<b>2018年</b>	中央アジア日本語弁論大会・中央アジア日本語教育セミナー タシケントで開催 タシケント・アンディジャン・サマルカンドでNAT-TEST開始
<b>2019年</b>	国立国語研究所（プラシャント・パルデシ教授）日本語教師セミナー開催 モノセンター（職業訓練・雇用促進センター）設立

<b>2020 年</b>	JAPAN DIGITAL UNIVERSITY 設立 中央アジア日本語弁論大会 オンラインで開催 新型コロナウイルス感染症により日本語能力試験中止(7月・12月)
<b>2021 年</b>	ウズベキスタン日本センター (UJC) 設立 20 周年 日本語能力試験再開 (7月・12月)
<b>2022 年</b>	ウズベキスタン日本語弁論大会 サマルカンド外国語大学で開催 JFT-Basic (日本語基礎テスト) タシケントで実施 ウズベキスタン日本センター (UJC) 開設 15 周年 シルクロード観光大学 (サマルカンド) で日本語教育開始
<b>2023 年</b>	ウズベキスタン日本センターで日本留学フェア開催
<b>2024 年</b>	中央アジア日本語弁論大会・日本語教育セミナー タシケントで開催 タシケント・ブハラで日本留学フェア開催
<b>2025 年</b>	名古屋大学日本法教育研究センター 設立 20 周年 タシケント・ブハラ・サマルカンドで日本留学フェア開催

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)